

令和7年度 学校評価報告書

園 名 松 が 丘 幼 稚 園

1 教育目標

『元気な子・心豊かな子・たくましい子』
 ・自己を発揮し、のびのびと活動する子を育む
 ・友達と思いを伝え合い、心を通わせて遊ぶ子を育む
 ・自ら考え、工夫し、挑戦しようとする子を育む

2 重点目標

「一人一人が遊び込める幼稚園をめざす」
 ～ 幼児の“気付く・感じる”姿に着目して ～
 3歳児 安心して園生活を過ごす中で、自分のしたい遊びを見つけて存分に楽しむ
 4歳児 友達と関わり合いながら、自分の思いを十分に表し、一緒に遊ぶ楽しさを味わう
 5歳児 友達と思いや考えを伝え合いながら、試したり、工夫したりして遊びを進めることを楽しむ

3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策
教育課程	一人一人が遊び込める教育の推進	気付いたり、感じたりしている姿に着目しながら、「試行錯誤」を支える援助や環境構成を工夫することが、幼児の遊び込みにつながった。環境保護に対する意識もささやかながら芽生え、家庭でも口にする幼児が出てきている。
異年齢児交流	3年間の育ちを見通した保育の充実	今年度の新たな取り組みとして、3学年がともに過ごす時間の確保、3,4歳児と一緒に過ごす保育の工夫を実践したことで、学年の枠を超えて関わる姿が増し、関係が深まった。本年度より週5日となった預かり保育の中でも、学年を超えた関わりが多く見られている。
子育て支援	親と子の交流や育ちの場としての機能の充実	今年度より午前開催となった園庭開放を、8回実施。平均6組の親子が参加し、その中で3歳児との交流も継続してできた。2歳児保育体験『すくすく』は、好きな遊び・運動遊び・リズム遊び・わらべ歌遊び等、3歳児の保育を実際に体験できる機会となり、入園への安心感につながった。
学校園所連携	保幼小中連携の推進と小学校との円滑な接続をめざした取り組みの推進	園と学校の立地条件を存分に活かし、様々な交流を実施した。新たに取組んだ体育委員との交流は、5歳児の就学への期待と安心感につながったと感じる。5歳児と1年生の育ちと学びを実際に語り合い、接続カリキュラムを作成することができた。相互の教育に活かせるカリキュラムとなるよう、毎年、見直しを継続していく必要がある。
危機管理	安全、安心な園づくりの推進	年間8回の避難訓練を実施した。回数を重ねるにしたがって、幼児が自分で考えて行動しようとする力が身についてきたように感じる。今後も様々な非常時の場面を想定する中で、幼児と職員の危機管理意識の向上を目指したい。

4 学校関係者評価

自分で考え、遊びを創り出す力が育まれてきていると感じる。また、そのためには教師の忍耐強い関わりが必要だと分かった。SDGsの取り組みは、こどもの頃から少しずつ自然に身につくことが大切だと思うので、取り組みを続けてほしい。

同学年は少人数であるが、他学年と過ごすことで自分から関わろうとする姿が見られた。コミュニケーション力を磨くことはとても重要だと感じるので、今後も異年齢交流の充実を期待する。

子育て支援の内容について、地域に広く周知できるよう工夫が必要である。園主催の子育て講演会はとても有意義だったので、2歳児の保護者や卒園生への開催周知も検討してはどうかと感じた。

小学生に憧れの気持ちを持ち、不安なく就学を迎え、培った力を存分に発揮したり、幼児に親しみを感じ、自分の育ってきた道筋を振り返り、成長を感じることで責任感が増したりし、とても有意義な交流ができていと思う。

見たり、聞いたりするだけの体験と実際に動き、五感を通して体験したこととは、理解に大きな違いがある。自分事として捉えるため、リアル体験の中で、具体的に考える機会の積み重ねが大切である。

5 総合的な評価結果

幼児の「試行錯誤」は、全て気付いたり、感じたりすることから始まっている。そして、幼児が気付いたり、感じたりすることで、活動が加速したり、活動をやめたり、友達とつながったり、遊びと遊びが繋がったりすることが分かり、教師自身の気付く・感じる力の向上を目指す大切さを知った。今後も少人数ならではの異年齢児や小学校との交流、子育て支援を実現できるよう、内容の工夫に努めていきたい。また、来年度は遊び込むための基礎となる体づくりにも注力していきたい。

6 総合的な学校関係者評価

幼児の興味や関心を最大限に生かし、環境を通して遊び込める幼稚園を目指し、努力がされている。その中で、自分達で考え、遊びを創り出し、進める力も育ってきている。その取り組みをより分かりやすく、保護者や地域へ伝えるための工夫とコミュニケーションの機会確保に努め、松が丘幼稚園のよさをより発信して行ってほしい。